

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地
自己評価作成日	平成 24年 5月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 6 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、自然豊かな田園の中にあり、春はやいちご狩り、夏は蛍狩り、秋はぶどう狩りと、近隣の自然、資源を活用した行事の企画、実施を行い、利用者の方々に季節を味わっていただいている。行事以外でも、施設に設けられた畑へ散歩ついでに出向き、農作物の成長や収穫を楽しんでいただいたり、外にテーブルを出し、お花見やガーデニング、食事を行う等、のどかな環境の中で、身近な自然に触れ合いながら生活していただいている。また、地域の運動会や秋祭り、幼稚園、保育園等を訪問し、地域の方々との交流も深めている。
併設型なので特養看護師の協力も得られるため、利用者さん、ご家族の方々に、健康面でも安心していただける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に恵まれ、主要道路からも近い利便性のある地に建てられた総合福祉施設の1階にある。常に清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気がある。管理者と職員は理念を共有し、理念に沿った目標を定め、研鑽を積んでいる。敷地内に設けられた畑では、地域の方の指導や協力を得ながら、季節ごとの野菜を収穫している。地域の方との結びつきが深く、利用者も顔なじみとなり、一日一日をゆったりとした時間の中で穏やかな生活をしている。かかりつけ医の受診など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 桑原 陽子

評価完了日 平成24年 5月 26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設の基本理念を基に、職員でグループホームの理念を作成し、目に付く所に掲示するなどしている。入職時には理念とその実践方法について説明し、職員1人1人に理念に添った個人目標を立ててもらい半年に1度評価することで実践に結びつけている。</p> <p>(外部評価) 法人理念を基に、事業所独自の理念を職員全員で作成し、共有している。掲示したり日々の記録ファイルに綴るなど工夫し、常に意識付けをしている。職員は、理念にそった個人目標を定め、管理者と半年毎に話し合いの機会を設け、より質の高いケアを追求している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 幼稚園や保育所との交流、地域の夏祭りや運動会へ参加させていただくと共に、地域の方にも納涼祭や秋祭りなどに来ていただいている。また地域の方から野菜を頂いたり、みかん狩りにお誘いいただいたり、腹話術のボランティアに来ていただいている。毎年年末には地域の子供たちと餅つきを楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 近隣の学校、幼稚園、保育所からの訪問や、地域行事への参加など、交流の機会を頻繁に設けている。日頃から、地域の方やボランティアの方が気軽に事業所を訪れ、畑作業を支援するなど、良好な関係が築けている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ご家族や見学に来られた方から相談があれば応じるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況や評価への取り組みなどを報告させて頂いている。地域の方からアドバイスを頂くことも多く、サービスの参考にさせていただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議では報告や意見交換が行われ交流がすすんでいる。昼食を共にするなど、サービスをより知ってもらうための工夫をしている。地域の方や市担当者から防災や余暇活動等について具体的な意見や情報を得て、サービスの向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ほぼ毎回運営推進会議に出席していただき、実情や取組みを報告し意見を伺うようにしている。また、伊予市グループホーム連絡協議会などに参加し意見交換を行っている。わからないことや困ったことがあればその都度市の担当者に相談している。	
			(外部評価) 日頃から連絡を密にとっており、相談や情報提供を必要に応じて行っている。運営推進会議を通じて事業所の実情やサービスの取組みを伝え、アドバイスをもらうなど、良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内でも勉強会を行うなど職員の身体拘束防止に対する知識を深め、身体拘束をしないケアを行うようにしている。	
			(外部評価) 玄関の施錠はせず、利用者の外出に対しては見守りながら対応している。勉強会への参加やユニット合同のミーティング等で、身体拘束をしないケアの理解を深め職員で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内でも勉強会を行うなどすると共に、ミーティングなどの機会にも話し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内でも学ぶ機会を作っているが、該当者がおらず活用はされていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約などの際には、書面に添って説明した後不安や疑問が無いかお聞きするようにしている。また不安や疑問があればいつでも質問して下さいと声を掛けるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の要望は日頃の会話などから把握するようにしている。ご家族にはケアプラン説明時や面会時に要望などをお聞きするように努めている。要望などがあれば職員間で共有・話し合いを行い運営に反映するように努めている。苦情については相談窓口を家族に説明している。 (外部評価) 意見箱や相談窓口の設置、日常の連絡、ケアプランの説明時、面会時等、利用者や家族が意見や要望を気軽に話せる機会を増やす努力をしている。出された意見や要望はミーティングで話し合い運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の業務の中で意見を聞くほか、ミーティングの際や年2回の個人面接の際にも意見や要望を聞くようにしており、必要に応じて話し合いを行い、運営に反映・生かすようにしている。 (外部評価) 管理者は日頃から職員が気軽に意見を出せる雰囲気を大切にしており、良好な信頼関係ができています。半年毎に個人面接を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の自己評価と人事考課表や職員からの報告で把握するように努めている。また年に1回職場環境に関する要望なども用紙に記入してもらっている。出来ることは対応するようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修については情報提供し、積極的な参加を促している。また事業所内でも毎月勉強会を行い、知識・技術の向上が図れるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通じ交流する機会を作っている。相互訪問は計画していたが実現していない。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前にご本人にお会いしたり、ご家族にお話しを聞いたりすることで、本人の理解に努めている。また入所後は、本人の思いや環境の変化による混乱などの把握に努め、安心して生活できる環境づくりに努めると共に、職員や他利用者となじみの関係が築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前にご家族の要望や不安などをお聞きするように努めている。それに対する具体的なサービス内容を説明し、話し合うことで信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学や入所相談の際に御本人の状態をお聞きし、必要に応じてサービスや支援について説明させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人差はあるが、掃除・調理・畑・季節行事などについて手伝っていただいたり、教えていただいたりしながら共に支えあう関係づくりに努めている。1人1人の個性を生かせるように、また出来ることや持っている力を引き出せるような関わりを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時などにはお話しする機会を作り、情報を共有したり教えていただいたりしながら関係づくりに努めている。必要時には電話や面会・外出など協力していただき共に支えていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族・知人などが面会に来られた際には、またいつでも面会に来てくださいと声をかけ、訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) 地域の友人や知人、施設内の他事業所の方の訪問も多く、利用者の大切な人間関係が継続するよう支援している。墓参りや飲食店、美容室等、馴染みの場所へ出かける支援も家族の協力を得ながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 席の配置を本人の希望やそれぞれの性格、行動等に考慮し決めたり、作業や役割を協力し合って行えるよう分担している。また、レクリエーションや行事を通じて交流が深められるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院時には、管理者を問わずお見舞いに行かせていただいたり、退去された方のご家族から相談等があれば、お話を聞くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に思いや意向を聞き出せるよう関わり、今後の支援に活かせる情報は職員間で共有している。把握が困難であったり、不確かな場合も、出来る限り希望を把握できるような対応を心がけている。状況によっては、思いや行動の原因を探るべく情報収集、話し合いを行っている。 (外部評価) 入居前の生活歴や、日常の何気ない生活の中で知り得た細かな情報を個別ケース記録にまとめて、利用者の希望や意向を把握し全職員で共有している。利用者が思いを伝える事が困難な状態でも、これまでの情報を大切に本人の気持ちを察するよう心がけ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所の際ご家族に、血縁関係、年代別の生活歴やエピソード、習慣、好み等を項目別に記入していただいている。また、日々の会話等から情報を得たり、ご家族の面会時にも尋ねる等し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの好きなこと（例えば、音楽を聴くこと、散歩等）や有する力を把握し、それらを楽しめる機会を作ったり、出来ることを手伝っていただくよう努めている。また、体調等によって、必要時には休息も取っていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 入所時、ご家族にどのように過ごしていただきたいのか希望をお聞きしたり、必要時には時間を作り職員・ご家族と話し合う等している。また、ご家族が面会に来られた際も、その都度コミュニケーションを図り、そこで得た情報や要望をケアプラン作成の際に反映するようにしている。</p> <p>(外部評価) 3か月毎にケアカンファレンスを行い、利用者と家族の希望をとり入れた介護計画を作成している。立てられた計画は、実施表、ケース記録に日々記録し、1か月毎に評価を行っている。</p>	<p>実施表、ケース記録は細やかな記録ができていますが、今後はさらに達成度を数値などで表し利用者がより達成感を感じられるようにしたり、具体的な分析や評価等、より良い介護計画やモニタリングにつながる取り組みに期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の様子やケアの実践・結果は個別記録し、職員間で情報を共有している。また、よりよいケアを提供していくため、カンファレンスの際には職員全員の意見を参考に話し合い、ケアプランの見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居前にデイサービスを利用されていた方等から希望があれば、デイサービスで過ごしていただく等、可能な限り本人やご家族の状況、要望は受け入れるようにしている。また、その時々生まれるニーズにも対応できるよう努めてはいるが、本人の状態等により難しいこともある。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 秋祭りや地域の運動会に参加したり、幼稚園や保育所に訪問させていただく等交流の機会を作っている。また、地域の方がボランティアで銭太鼓や腹話術を披露して下さることもあり楽しまれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に本人や家族の希望を確認し、馴染みのある医 師による継続的な医療を受けられるよう支援してい る。また、施設の嘱託医による往診も週一回あり、そ の他に往診に来て下さる病院についても把握し、必要 な方に適切な医療が受けられる体制を整えている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の希望を聞き、馴染みのかかりつけ医 への受診ができるよう支援している。週1回の協力医 による往診、またその他の往診可能な医療機関とも連 携を図り、必要な医療を適切に受けられる体制をつ くっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々、健康管理や観察を行い、早い段階で状態の変化 や異常に気付けるよう努めている。また、必要時には 同施設の看護師やかかりつけ医と連絡を取り、早期対 応を心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、環境の変化による不安や混乱を最小限に でききるよう医療機関へサマリーを作成し情報の提供 を行っている。また、入院中は関係者と連絡を取った り、病院に足を運び本人の状態把握にも努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは行っていない為、施設としては出来 る事の限界を入所時にご家族にお話し、理解してい ただいている。重度化した場合には、早い段階からご家 族・医師と話し合いを行っている。	
			(外部評価) 入居時に終末期ケアを行わない方針を明確に伝え、で きること、できないことについて説明し、理解を得て いる。重度化した場合についても、その都度家族や医 療関係者等で話し合いの場をもち、早期から支援する ように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日々、かかりつけ医や看護職との連携に努めており、急変や事故発生時に備えて、連絡方法や手順は把握している。ミーティングの際に急変時の対応について確認は行っているが、定期的な訓練、実演までは行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成しており、年2回、地域の消防による昼夜を通しての避難策、訓練の指導を受けている。また、地域の方々とも災害時の協力体制や備蓄品の備え等についての話ができています。	
			(外部評価) 災害時の対応はマニュアル化されており、年2回、消防署の指導を受け、昼夜想定での避難訓練を利用者と一緒に実施している。訓練実施後は反省点や今後の課題について職員間で話し合っている。施設は地域の避難所となっており、地域自主防災組織の協力体制もあり、地域を含めた大規模な災害訓練も予定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) マニュアルを作成し、全職員が利用者の尊厳やプライバシー確保の重要性を理解している。また、ミーティングの際に行っている勉強会においても、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学んでいる。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの状態を理解し、個性を尊重しながら日々のケアを行っている。プライバシーについて、職員間で気になることがあれば注意し合い、接遇等についての勉強会にも参加し、適切な声かけや対応ができるよう、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつの際に種類がある物に関しては、利用者さんを選んでいただいたり、買い物や散歩などの要望は実現できている方もおられるが、思いや希望の把握、自己決定が困難な方については、働きかけは行っているが十分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、日中居室で過ごしてもらったり、自由参加でレクリエーションを楽しんで頂いたりしている。就寝準備後も基本的にはそれぞれのペースで過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気温や気候、季節に合わせて衣類を準備している。散髪は施設に回ってくる理容師・美容師によって行われている。介助が必要な利用者の更衣に関しては、職員が衣類を選んでいることが多く、課題が残っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物や行事の際の食事などの考慮は行っている。献立は、利用者に希望を伺ってはいるが具体的な返答が無く職員が立てている状態で、個別のニーズには反映されていないのが現状である。食事の準備は野菜の皮むき・筋とり等、出来る事は手伝って頂いている。また片付けも手伝っていただいている。 (外部評価) 職員は、施設の栄養士の指導のもと、利用者の希望を聞きながら献立を立てている。買い物や下ごしらえ、準備、下膳等、利用者ができることは一緒に行っている。事業所内の畑で採れた収穫物を味わうこともある。一人ひとりの状態に応じて、個人のペースを大切にしながら、ゆっくりと食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 白米をなかなか食べない、あるいは食べにくい利用者にはおにぎりにしたり、むせ込みがある利用者にはお粥にしたりと個別の状態に合わせて提供している。水分をあまり摂ろうとされない方に対しては、こまめに声掛けをしたり、ストローを使ってみたり工夫を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 介助が必要な利用者には、毎食後必ず声を掛けて付き添い、口腔ケアを行っている。また、口腔状態に応じて洗浄液を使用する等、利用者の状態に合わせたケアを行っている。義歯は夜間にお預かりし、入れ歯洗浄剤にて殺菌・消毒をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介助が必要な利用者には、常に付き添い支援をしている。また、個別に排泄パターンを掴み、昼夜関係なく誘導を行っている。希望があれば、極力すぐに対応し排泄の失敗を減らすように努めている。	
			(外部評価) 支援や見守りが必要な利用者が多く、一人ひとりの細かな排泄のパターンや習慣を把握して、適切な排泄介助を行っている。職員は見守りや声かけをさりげなく行い、転倒防止などリスク面にも配慮しながら、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況や間隔には留意しているが、飲食物の工夫等はあまり出来ておらず、下剤に頼っているのが現状である。下剤使用に関しては、個々の排便状況に応じて、適切な量・使用頻度の模索に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には入浴の間隔が開いている利用者から優先的に声掛けを行い、入浴して頂いている。拒否された場合などは無理強いせず、時間や日にちをずらし本人の状態を見て声掛けするなど、出来る限り本人の希望に合わせている。入浴の時間帯は午後1時～4時くらいに固定している。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望を考慮しながら入浴を支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけのタイミングや誘導方法を工夫し、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。施設内には機械浴の設備が整えられており、状態に応じて使用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間ゆっくり休んで頂くため、なるべく昼間は起きて頂くようにしているが、眠気のある利用者には休息を勧めたり、その日の状態に合わせて対応している。日中の活動状況、夜間の様子等は職員間で情報交換出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の状態を適宜医師に報告し、薬を調整していただいている。目的や副作用については確認しやすいように全員分をファイルにまとめている。誤薬防止の為、内服前に2名の職員で名前・日付・種類等の確認を必ず行っている。また、下剤等の常薬でない薬に関してはチェックシートを使用し、重複・飲み忘れがないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態や能力、好みに応じて、食器拭きや洗濯物たたみ、花の水やり等の役割や活動が行えるように支援している。また、スピーチが好きな利用者には行事で挨拶をして頂く等、利用者の性格も考慮して役割分担している。レクリエーション・行事を行い楽しく生活できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に応じて、職員と一緒に施設敷地内を散歩等はして頂いているが、ドライブ等の外出行事に関してはその日の希望ではなく、事前に職員が計画して行っている。春から秋は、週3回の買い物に出来るだけ利用者も同行して頂き、外に出る機会を増やしている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺や近隣の畑まで散歩したり買い物等戸外に出かけている。地域の方に情報をもらい、みかん狩り等の外出行事を実施している。家族の協力を得ながら、利用者の希望にそった外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理はほとんど職員が行っており、主に日常の必要な物を購入する事が多い。買い物に同行して頂いた際に、おやつを購入して頂いたり、施設に車で回ってくるパン屋さんでパンを購入して頂くことはあるが、ご自分で金銭を所持したり、使えるようにといった支援には至っていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、職員が仲介を行い電話をして頂いているが、電話を希望される方はあまりいない。手紙のやり取りは、現在年1回の年賀状のみの為、職員の働きかけをもっと増やして、支援していく必要がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者と一緒に季節の物の水彩画を描いたり貼り絵を行い、それらを掲示する事で季節を感じられる空間をつくっている。共用の空間は朝の時間帯に全て清掃を行い、清潔を保つように努めている。	
			(外部評価) 事業所内は清掃が行き届き、清潔で明るく、共用の空間はゆったりとした広さが確保されている。壁面には、利用者と共に作成した季節感を採り入れた飾り付けがある。窓からは自然の移りゆく景色を楽しむ事ができ、中庭では外気浴を楽しみながら過ごすこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の皆様で過ごされるテーブル席以外、テレビの前にソファやそこから少し離れたところに長椅子を配置し、一人でも過ごせる空間を設けている。また、利用者間の関係も考慮し、席替えを行ったりして気のあった者同士で過ごせるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みのある家具や持ち物等を持って来て頂くように、入居案内に記載し、口頭でもその必要性を説明している。また、安全に過ごして頂く為に、居室内のテレビ・タンス・ベッド等の位置は利用者の状態、行動等を考慮して、本人・家族と相談した上で配置している。	
			(外部評価) 使い慣れた家具や家電、仏壇、食器等を自由に持ちこみ、居室で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。利用者の状態によっては、混乱を招かぬよう誘導のためのテープを床に貼ったり、刺激となる鏡にカバーをする等、本人が安全に生活できる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室とテーブル席の位置を個々に考慮し、出来る限り歩行能力を維持して頂くように努めている。夜間トイレの多い方はトイレに近い居室にすることで、安全な生活が送れるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	平成24年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 6 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海にも山にも近い豊かな自然の中で季節の移り変わりを感じながら過ごして頂いております。施設内には畑があり、農作物の水やりや収穫を利用者の方と共に楽しみながら行っています。また、地域の方に耕うん機で畑を耕して頂いたり、苗を頂いたり、色々とご協力して頂いております。じゃがいもやさつまいもの収穫は、恒例行事となっており、その日は、職員、利用者の方総出で、収穫します。これ以外にもイチゴ狩り、蛍狩り、ドライブ、ぶどう狩り、砥部動物園見学など近隣の自然、地域資源を利用して行事を行っています。また、利用者の方の転倒時や特変があった場合は、特別養護老人ホーム、デイサービスといった他の部署の看護師に診て頂き、相談するなど、高齢者総合福祉施設の特性を活かした看護体制を取っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に恵まれ、主要道路からも近い利便性のある地に建てられた総合福祉施設の1階にある。常に清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気がある。管理者と職員は理念を共有し、理念に沿った目標を定め、研鑽を積んでいる。敷地内に設けられた畑では、地域の方の指導や協力を得ながら、季節ごとの野菜を収穫している。地域の方との結びつきが深く、利用者も顔なじみとなり、一日一日をゆったりとした時間の中で穏やかな生活をしている。かかりつけ医の受診など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 桑原 陽子

評価完了日 平成24年 5月 26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員一同で考えた理念に基づいた目標を職員一人一人に立ててもらい、半年に一度面接を行い評価・反省する事により実践につなげている。	
			(外部評価) 法人理念を基に、事業所独自の理念を職員全員で作成し、共有している。掲示したり日々の記録ファイルに綴るなど工夫し、常に意識付けをしている。職員は、理念にそった個人目標を定め、管理者と半年毎に話し合いの機会を設け、より質の高いケアを追求している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設行事等には、積極的に地域の方に声を掛け来訪して頂いたり、地域の施設へも訪問させて頂き交流を図っている。又、ホーム内で取り組んでいる畑作りを地域の方が来て下さり助言・指導等して下さっており交流の場になっている。	
			(外部評価) 近隣の学校、幼稚園、保育所からの訪問や、地域行事への参加など、交流の機会を頻繁に設けている。日頃から、地域の方やボランティアの方が気軽に事業所を訪れ、畑作業を支援するなど、良好な関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々から相談を受ける事があれば、認知症のアドバイスが出来るよう体制を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加されている方と積極的に意見交換 し、そこで出た意見を報告書にまとめている。頂いた 意見を参考にサービスの向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では報告や意見交換が行われ交流がすす んでいる。昼食を共にするなど、サービスをより知っ てもらうための工夫をしている。地域の方や市担当者 から防災や余暇活動等について具体的な意見や情報を 得て、サービスの向上に活かされている。</p>	<p>参加者との関係が深まり活発な意見交換がされてい るが、今後は、会議のテーマを設けて専門知識をもつ参 加者を招くなど、さらに工夫した取組みがなされるこ とを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当者とは、困った事等相談できる体制を作っ ている。又、伊予市グループホーム協議会の開催時 には、出席し意見交換を行うよう努めている。</p> <p>(外部評価) 日頃から連絡を密にとっており、相談や情報提供を必 要に応じて行っている。運営推進会議を通じて事業所 の実情やサービスの取組みを伝え、アドバイスをも らうなど、良好な関係が構築されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内で定期的に身体拘束に関する勉強会を行い、 職員全体が正しい知識を身につけることにより身体拘 束のないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 玄関の施錠はせず、利用者の外出に対しては見守りな がら対応している。勉強会への参加やユニット合同の ミーティング等で、身体拘束をしないケアの理解を深 め職員で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で高齢者虐待の勉強会を開き事例等を検討する事により職員一人一人が虐待に関して考える機会を持ちお互いの行動にも気を付け、防止出来るよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を活用する機会はないが、学習会等を開き必要があれば活用できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、ご家族の意見・要望を積極的に聞き出す様努め、制度改定時等は、その都度 説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面接時等に家族へ積極的に声掛けする等し、運営に関する意見・要望等を聞き出すと共に意見・要望が出た際には、ユニット内で報告・相談し運営に反映できる様努めている。	
			(外部評価) 意見箱や相談窓口の設置、日常の連絡、ケアプランの説明時、面会時等、利用者や家族が意見や要望を気軽に話せる機会を増やす努力をしている。出された意見や要望はミーティングで話し合い運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングの際に職員の意見を聞く機会を作ると共に、年2回個別に面接を行う事により一人一人の意見を把握出来るように心がけ、又その意見を反映出来るよう努めている。	
			(外部評価) 管理者は日頃から職員が気軽に意見を出せる雰囲気を大切にしており、良好な信頼関係ができています。半年毎に個人面接を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日頃より、職員一人一人の状況を把握するためコミュニケーションを図る事を心がけている。年2回の自己評価・人事考課等を参考に可能な事は対応出来る様努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を積極的に設け、職員全体の知識の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 職員は研修会に参加し、参加者との交流・意見交換することで、事業所内のサービス水準の向上につなげている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時は、関わりを出来る限り多く持ち、積極的にコミュニケーションを図る等し、ご本人の気持ちを受け止めてられる様 心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始段階では、要望や不安をお聞きするなど家族と話しをする機会を持ち、信頼関係を築ける様努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今現在本人に必要なサービスを、ご家族との相談や状態観察等から導き出し、他のサービスも視野に入れながら適切に支援出来る様に心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの中で、調理、畑、季節行事などを出来る限り共に行ったり考えたりする事を心がけ、分からない事は教えて頂く等行い、共に支え合う関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時等には本人の事を積極的にお聞きし、困った時等はその都度相談するなど、共に本人を支える関係が築ける様心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事には積極的に参加し、ご家族、知人の方が面会に来られやすい雰囲気作りを職員一同心掛けています。 (外部評価) 地域の友人や知人、施設内の他事業所の方の訪問も多く、利用者の大切な人間関係が継続するよう支援している。墓参りや飲食店、美容室等、馴染みの場所へ出かける支援も家族の協力を得ながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 業務の中で、利用者同士の関係を把握し、座席の配置などに気を配っている。また、レクリエーションなどを通じて、利用者間の交流が図りやすい様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への退去や、入院で退去になった方の面会やお見舞いに行っている。また、退去された方のご家族から相談があれば、お話を聞き対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の言動やご家族からのお話で、本人の思いや要望の把握に努め、カンファレンス等で情報を共有し、支援について検討している。	
			(外部評価) 入居前の生活歴や、日常の何気ない生活の中で知り得た細かな情報を個別ケース記録にまとめて、利用者の希望や意向を把握し全職員で共有している。利用者が思いを伝える事が困難な状態でも、これまでの情報を大切に本人の気持ちを察するよう心がけ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、ご家族、ケアマネージャー、サマリー等の情報を基に把握に努めている。また、支援をしていく中で必要な情報は、その都度得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのその日・その時の状態を把握し、それに対し柔軟な対応に努めている。また、有する力が活かせる役割を見つけるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画は、本人との日々の関わりの中で、本人の願いや状態の変化を観察し、家族の要望等も含め、職員間で話し合い作成している。また、本人の状態の変化等があれば、職員間で話し合い変更、追加している。</p> <p>(外部評価) 3か月毎にケアカンファレンスを行い、利用者と家族の希望をとり入れた介護計画を作成している。立てられた計画は、実施表、ケース記録に日々記録し、1か月毎に評価を行っている。</p>	<p>実施表、ケース記録は細やかな記録ができていますが、今後はさらに達成度を数値などで表し利用者がより達成感を感じられるようにしたり、具体的な分析や評価等、より良い介護計画やモニタリングにつながる取り組みに期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の様子やケアの実践、結果を個別記録に記入し、その情報を職員間で共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人やご家族の状況に対し、可能ながぎり対応しているが、サービスの多機能化の取り組みは不十分である。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の保育所、幼稚園等の交流や、スーパーへの買い物等、地域資源との協働を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は本人及び、家族の意向通りにしてお り、受診の際には必要な情報の提供を行っている。ま た、本人の状態に変化があれば、かかりつけ医に連 絡、相談を行っている。嘱託医は週に一度、往診に來 て頂いている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の希望を聞き、馴染みのかかりつけ医 への受診ができるよう支援している。週1回の協力医 による往診、またその他の往診可能な医療機関とも連 携を図り、必要な医療を適切に受けられる体制をつ くっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、本人の状態の変化等を観察し、必要時、 同施設内の看護師等に報告し、本人が適切な受診や看 護が受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した時は、サマリーを作成し必要な情報 を医療機関に提供している。また、利用者が入院中は 職員が面会に行き、病院関係者との情報交換や相談に 努め、退院時の準備を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に当事業所で出来る事、出来ない事を説明させ て頂き、理解して頂く様にしている。本人の状態に応 じて、早めに家族やかかりつけ医に相談し、必要に応 じて他施設や医療機関に移って頂いている。	
			(外部評価) 入居時に終末期ケアを行わない方針を明確に伝え、で きる事、できない事について説明し、理解を得て いる。重度化した場合についても、その都度家族や医 療関係者等で話し合いの場をもち、早期から支援する ように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応マニュアルを作成し、各自、目を通し把握出来るように努めている。定期的な応急手当等に関する研修は出来ていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回避難訓練を実施している。地域の防火訓練に参加させて頂く様に声を掛けている。また、施設の防火訓練にも参加をお願いしている。	
			(外部評価) 災害時の対応はマニュアル化されており、年2回、消防署の指導を受け、昼夜想定での避難訓練を利用者と一緒に実施している。訓練実施後は反省点や今後の課題について職員間で話し合っている。施設は地域の避難所となっており、地域自主防災組織の協力体制もあり、地域を含めた大規模な災害訓練も予定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの状態を理解し、個性を尊重しながら日々のケアを行っている。プライバシーについて、職員間で気になることがあれば注意し合い、接遇等についての勉強会にも参加し、適切な声かけや対応ができるよう、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の場面ごとに埋もれてしまいがちな本人が決める力や、その人らしい希望や願いを意図的に引き出す様に心がけてはいるが十分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人の希望を伺いながら、職員が支援し 御自分のペースで生活して頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時、その日着るものを選んで頂いたり、季節に合ったものを着て頂けるよう、提案している。化粧をされる方には、使用残量を確認し、ご本人と共に買い足しをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の下ごしらえや盛り付けをして頂いたり、お寿司の場合は混ぜて頂いたりしている。献立を立てる際は利用者の好みを伺い、メニューに盛り込み楽しみにして頂いている。下膳、食器洗い、食器拭きは、快く手伝っていただいている。	
			(外部評価) 職員は、施設の栄養士の指導のもと、利用者の希望を聞きながら献立を立てている。買い物や下ごしらえ、準備、下膳等、利用者ができることは一緒に行っている。事業所内の畑で採れた収穫物を味わうこともある。一人ひとりの状態に応じて、個人のペースを大切にしながら、ゆっくりと食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 月1回の体重測定により、前月比の増減を考慮している。又、糖尿病等生活習慣病のある方は、主治医にアドバイスを頂き、カロリーバランスを考えた献立を立てている。水分量は、10時・15時・希望時声掛けをし、摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けや、職員介助により口腔ケアをしている。その際口腔内を観察させていただき、磨き残しがないか、傷や痛みが無いか確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排尿チェック表を付けることにより個人の排尿パターンがつかんだり、声掛けや誘導により気持ちよく排泄していただけるような支援に努めている。	
			(外部評価) 支援や見守りが必要な利用者が多く、一人ひとりの細かい排泄のパターンや習慣を把握して、適切な排泄介助を行っている。職員は見守りや声かけをさりげなく行い、転倒防止などリスク面にも配慮しながら、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく水分を多めに摂って頂いている。主治医より、下剤を処方して頂いている方は、下剤に頼ってしまう傾向にある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後からの入浴で、最低でも1週間に2回は入って頂ける様にしている。当日の体調、バイタル、気分なども考慮し、入浴していただいている。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望を考慮しながら入浴を支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけのタイミングや誘導方法を工夫し、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。施設内には機械浴の設備が整えられており、状態に応じて使用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の御希望に添い、休息・入眠していただいている。日中散歩や畑仕事等で、日光を浴びることにより、夜間の安眠につながることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者全員の内服薬一覧表を作成しており、職員全員が分かりやすく把握できるようにしている。服薬は、職員同士で飲み忘れ、誤薬のない様確認しあっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望や昔の話を伺い、家事や畑仕事、買い物等して頂くことで、役割や気分転換が出来るよう支援している。また行事を企画した際にはフロアにポスターを貼り、楽しみのある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設敷地内の散歩や、畑に行くことはいつでも出来る。食材を買いに行く際、利用者1・2名同行して頂き、一緒に買い物を楽しんでいただいている。それ以外の外出は、行事として多人数で参加して頂いている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺や近隣の畑まで散歩したり買い物等戸外に出かけている。地域の方に情報をもらい、みかん狩り等の外出行事を実施している。家族の協力を得ながら、利用者の希望にそった外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理できない方は職員が預かり、希望時や必要時に遣っていただいている。ご自分で持たれている方もおり、ジュースやパン、お菓子等好きな時に買われている。金銭出納帳は、職員が付けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には、いつでも電話できるよう支援している。手紙を書かれない方には、葉書を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースには、季節感を感じられる様な飾りつけをしており、楽しんでいただけている。</p> <p>(外部評価) 事業所内は清掃が行き届き、清潔で明るく、共用の空間はゆったりとした広さが確保されている。壁面には、利用者と共に作成した季節感を採り入れた飾り付けがある。窓からは自然の移りゆく景色を楽しむ事ができ、中庭では外気浴を楽しみながら過ごすこともできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食事をされるとき席は、トラブルを避け馴染みの関係が作れるよう、なるべく気の合う方同士で座っていただいている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時には自宅で使われていた家具を持ってきて頂くようにご家族にお願いし、馴染みある居心地の良い空間になるように努めている。</p> <p>(外部評価) 使い慣れた家具や家電、仏壇、食器等を自由に持ちこみ、居室で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。利用者の状態によっては、混乱を招かぬよう誘導のためのテープを床に貼ったり、刺激となる鏡にカバーをする等、本人が安全に生活できる配慮がなされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室入り口には、各人の名前プレートを貼ったり、トイレ前には張り紙をしたりと、迷わず、ご自身で進んでいただける様工夫している。</p>	